資 料 3

麻しん・風しんに関する疫学情報

東京都健康安全研究センター

○麻しん

麻しんは、麻しんウイルスを原因とする感染症です。

一般的には「はしか」とも呼ばれ、過去には小児を中心に春から初夏にかけて多くみられていましたが、最近ではワクチン接種が進み、ほとんどが成人での発症となっています。

【感染経路・感染期間】

空気感染が主たる感染経路ですが、その他に、患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛まつ感染」、及びウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」もあります。感染力はきわめて強く、感染した人の 90%以上が発症します。周囲へ感染させる期間は、症状の出現する 1 日前（発しん出現の 3～5 日前）から 4～5 日後までです。

【潜伏期間・症状】

10～12 日間の潜伏期間の後、38℃程度の発熱及びかぜ症状（咳、鼻水、目の充血等）が 2～4 日続き、その後 39℃以上の高熱とともに発しんが出現します。症状は 7～10 日で回復します。肺炎、脳炎といった重い合併症を発症することもあります。

【治療】

特別な治療法はなく、症状に応じた処置（対症療法）が行われます。

【予防】

唯一の予防方法はワクチン接種です。

➢ **修飾麻しんとは**

幼少時に 1 回のみワクチンを接種しているなど、麻しんに対する免疫が不十分な人が麻しんウイルスに感染した場合、軽症で典型的な症状が現れない麻しんを発症することがあります。このような麻しんを「修飾麻しん」と呼びます。

具体的には、高熱が出ない、発熱期間が短い、発しんが手足だけで全身には出ないなどです。潜伏期間が長くなり、感染力は典型的な麻しんに比べて弱いといわれていますが、周囲の人への感染源になるので注意が必要です。

○風しん

風しんは、風しんウイルスを原因とする感染症です。

以前は小児を中心に春から初夏にかけて流行がみられていましたが、最近ではワクチン接種をしていない成人での発症が多くみられています。また、妊娠初期の女性が感染すると、先天性風しん症候群（CRS）※を起こすこともあります。

※先天性風しん症候群（CRS）

風しんに免疫のない女性が妊娠初期に風しんに感染し、風しんウイルスが胎児に感染することにより、出生児に先天性の心疾患、難聴、白内障等の障害を起こす病気の総称

【感染経路・感染期間】

患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛まつ感染」が主たる感染経路ですが、その他に、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」もあります。周囲へ感染させる期間は、発しんの出現する 7 日前から発しん出現後 5 日くらいまでです。感染力は、麻しんや水痘（水ぼうそう）ほどは強くありません。

【潜伏期間・症状】

通常 2～3 週間（平均 16～18 日）の潜伏期間の後、発熱、淡紅色の発しん、リンパ節腫脹が出現します。基本的には予後は良好ですが、関節炎や血小板減少性紫斑病、急性脳炎などの合併症を発症することもあります。ウイルスに感染しても明らかな症状がでることがないまま免疫ができてしまう（不顕性感染）人が 15～30%程度いると言われています。一度感染すると、大部分の人は終生免疫を獲得します。大人が罹患すると、その症状は小児に比べると比較的重いといわれています。

【治療】

特別な治療法はなく、症状に応じた処置（対症療法）が行われます。

【予防】

唯一の予防方法はワクチン接種です。妊婦に感染させないためには、本人だけではなくパートナーや周囲の人もワクチン接種することが重要です。

○麻しん・風しん混合ワクチン（MR ワクチン）

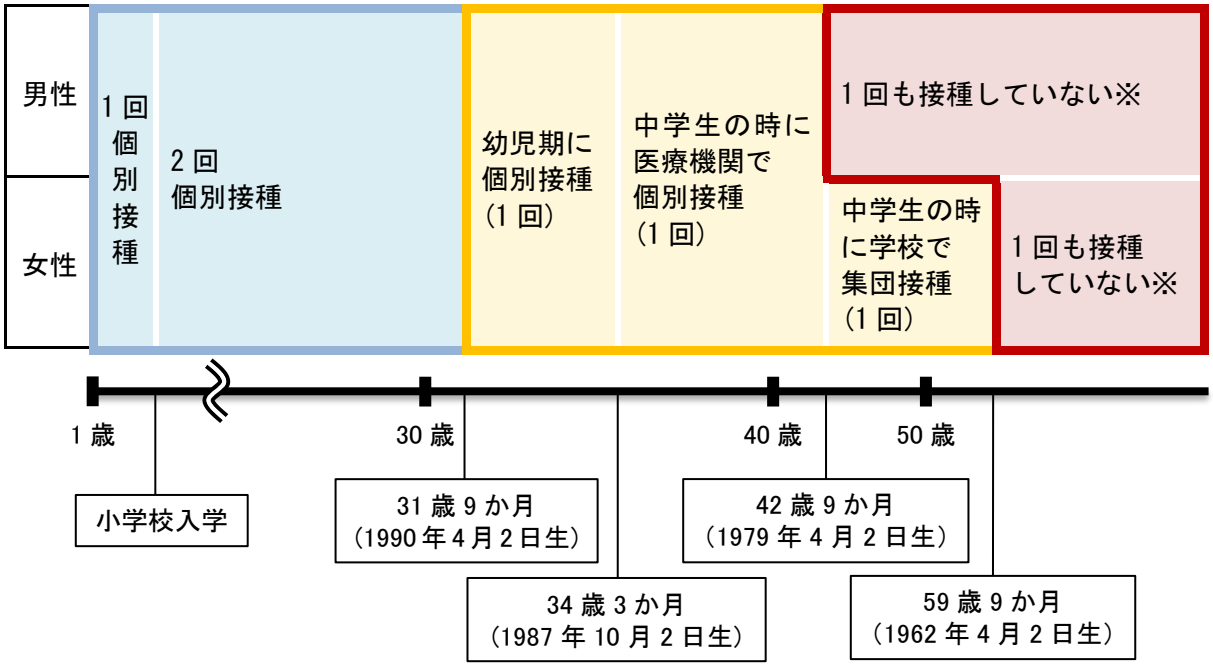
定期予防接種対象のワクチンです。2006 年 4 月から 2 回接種になりました（表 1）。決められた期間内に接種すれば公費となります（窓口は市区町村）。

表 1

第 1 期	生後 12 か月以上 24 か月未満
第 2 期	小学校入学前の 1 年間（5 歳以上 7 歳未満）

定期予防接種が 2 回接種となった 2006 年 4 月以前は接種回数や対象が異なっていたため（表 2）、まだ一度も感染したことがない人の場合は、大人でも免疫が「不十分」、または「ない」人もいます。MR ワクチンは大人になってからでも医療機関で接種することができます。多くの場合は全額自己負担ですが、2022 年 3 月 31 日までの間に限り、風しんに係る公的接種を受ける機会がなかった 1962 年 4 月 2 日から 1979 年 4 月 1 日までの間に生まれた男性を定期予防接種対象者（第 5 期）としています。

表 2　風しんの予防接種制度の変遷（年代別）



※42 歳 9 か月以上の男性と 59 歳 9 か月以上の女性は風しんのワクチンの接種機会がなかった

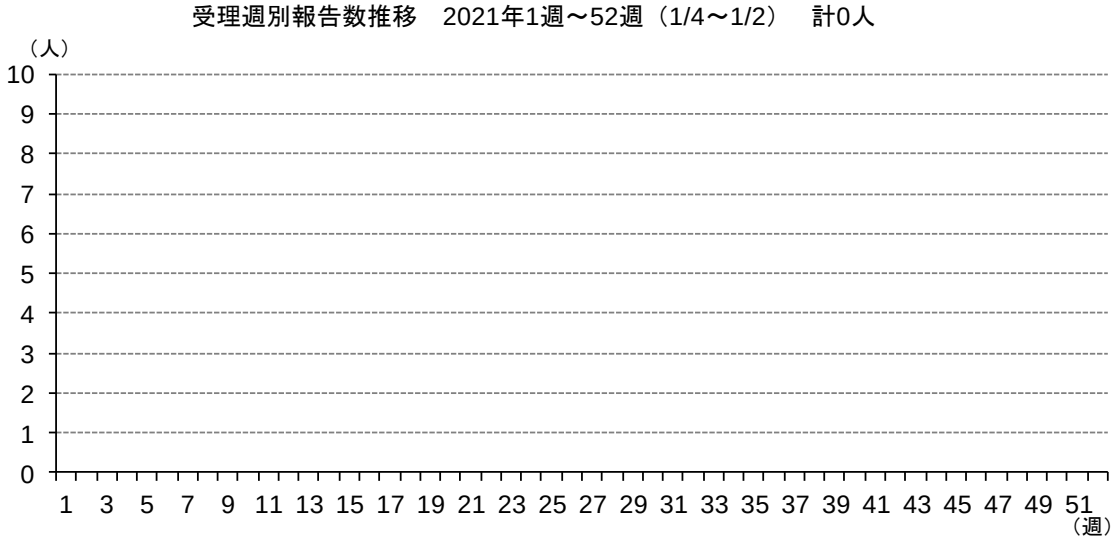
2022 年 1 月 7 日時点

都内における麻しんの発生状況（2021 年第 1 週から 52 週）

東京都健康安全研究センター

１．患者報告数の推移

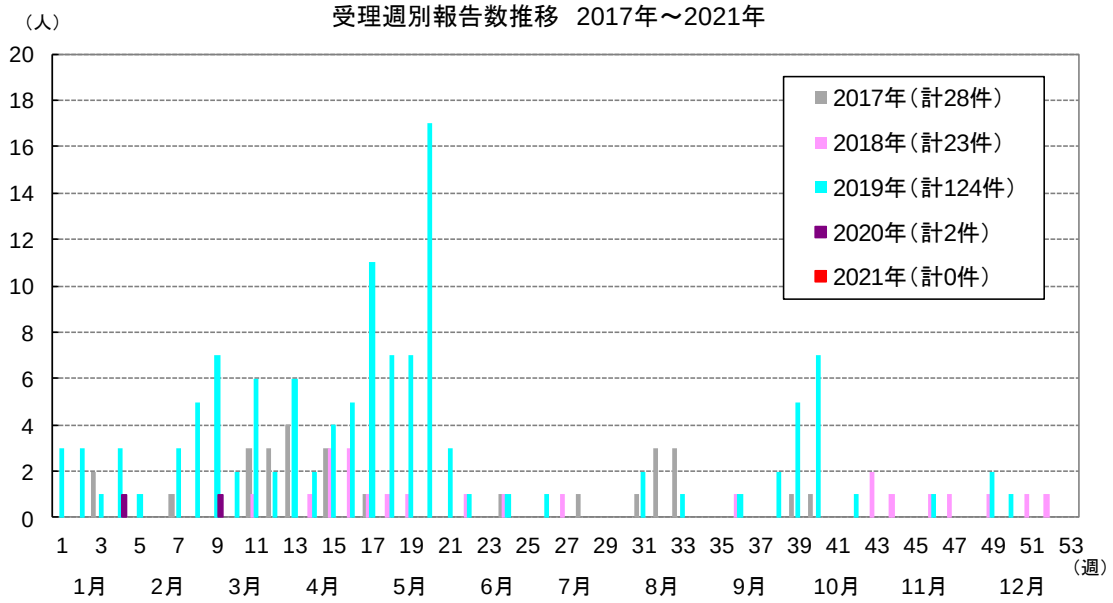
2021 年の年間累計報告数は 0 人であった。



＜参考＞

麻しん患者報告数の推移（2017 年～2021 年）

過去 5 年間でみると、2021 年は最も少ない報告数となった。

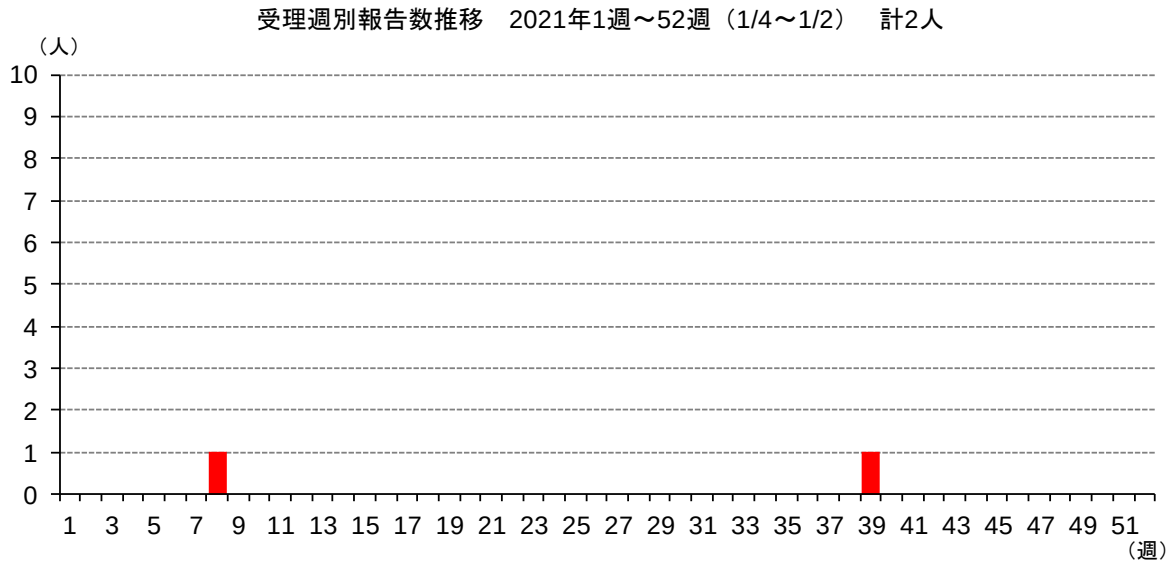


都内における風しんの発生状況（2021 年第 1 週から 52 週）

東京都健康安全研究センター

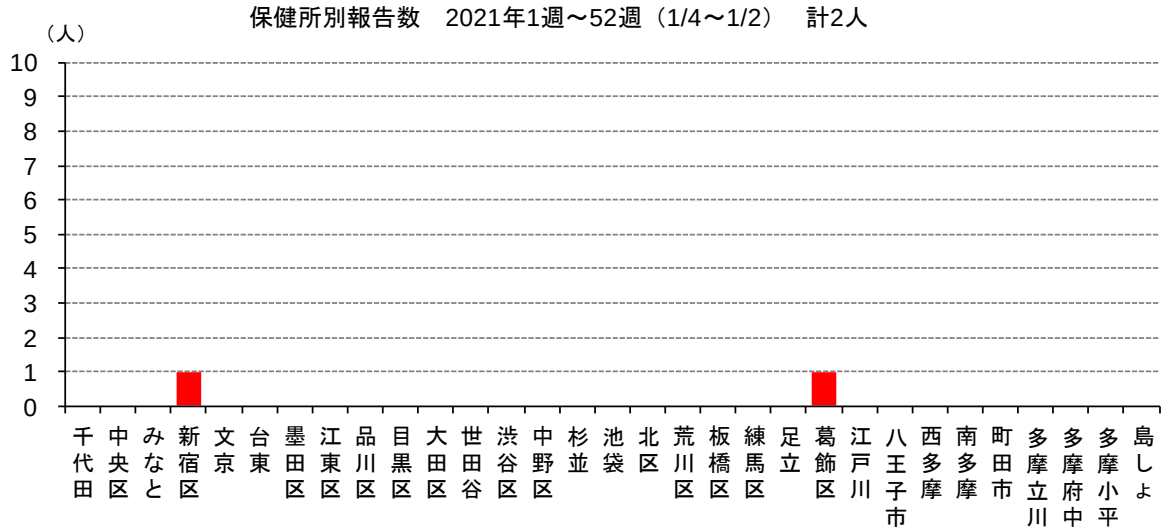
１．患者報告数の推移

2021 年の年間累計報告数は 2 人であった。



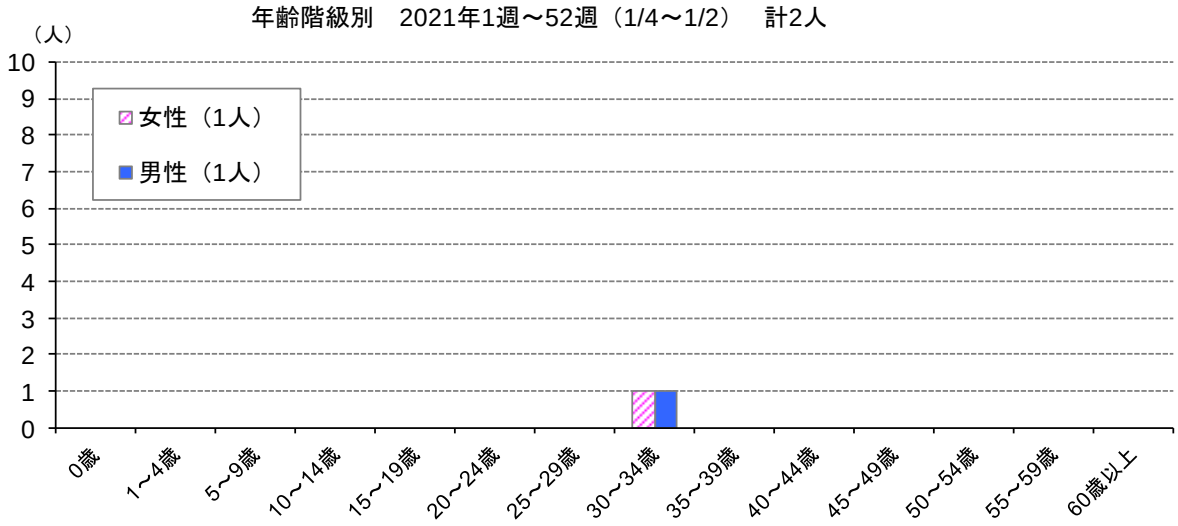
２．保健所別報告数

31 保健所中、新宿区保健所、葛飾区保健所から各 1 人の報告があった。



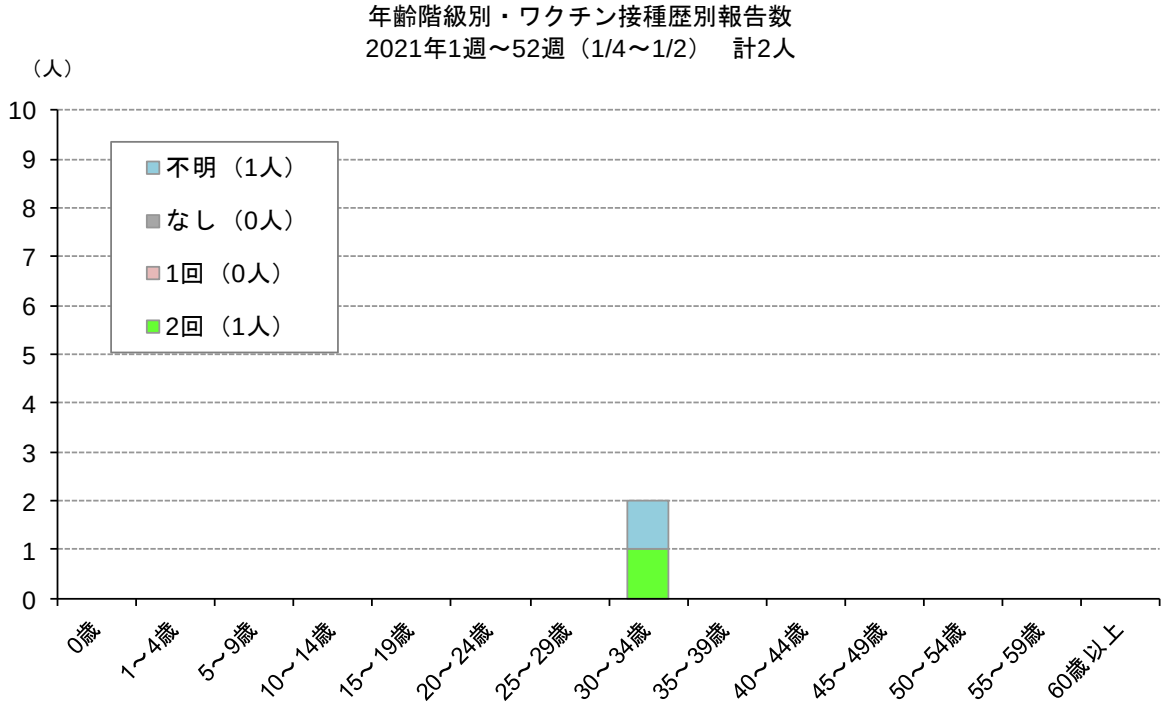
３．年齢階級別・性別報告数

年齢階級別では 30～34 歳が 2 人であった。性別では男性 1 人、女性 1 人であった。



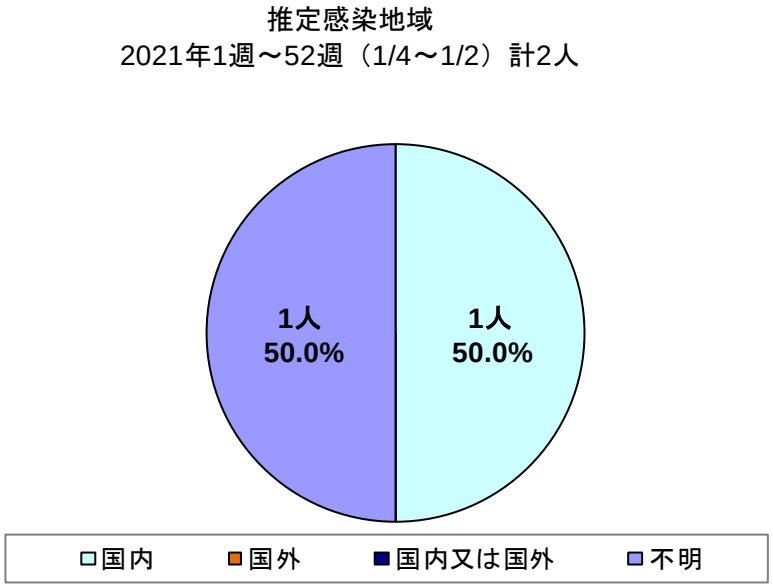
４．年齢階級別・ワクチン接種歴別報告数

ワクチン接種歴別でみると、2 回接種が 1 人、不明が 1 人であった。



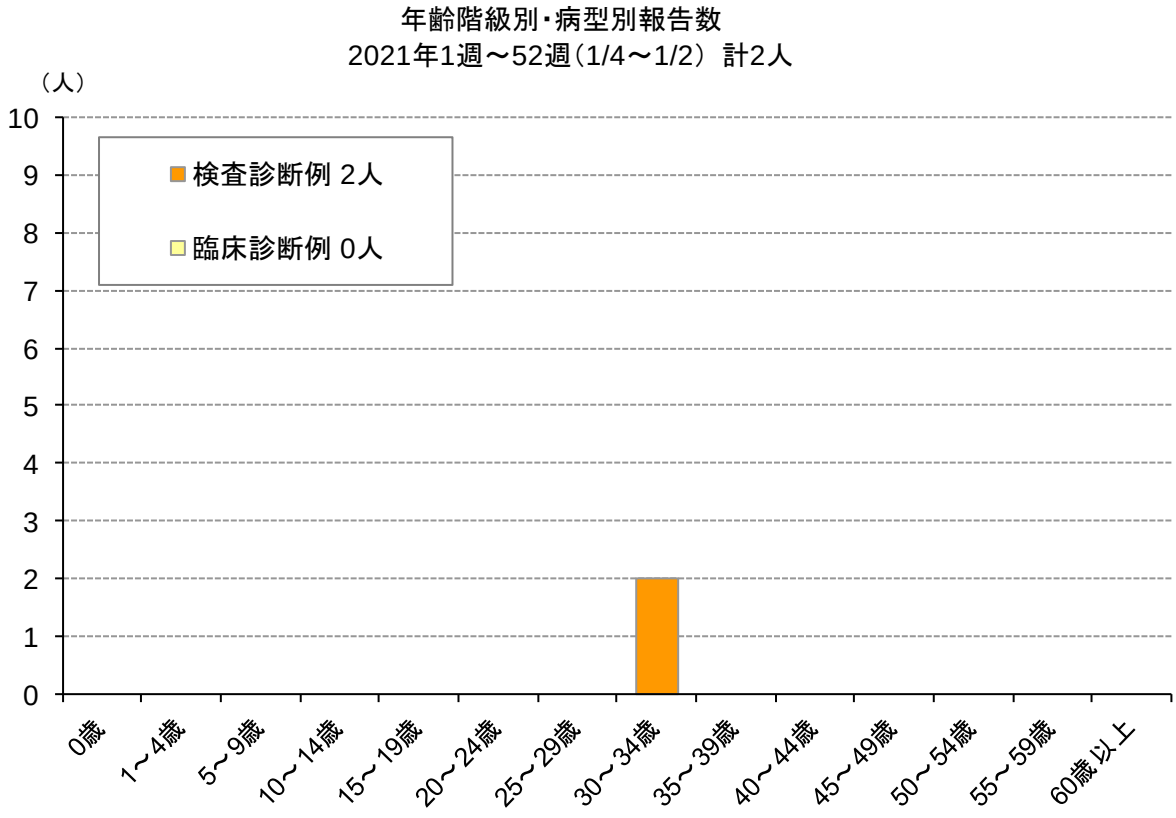
５．推定感染地域

推定感染地域は「国内」が１人、「不明」が１人であった。



６．年齢階級別・病型別報告数

病型別でみると、検査診断例が２人であった。



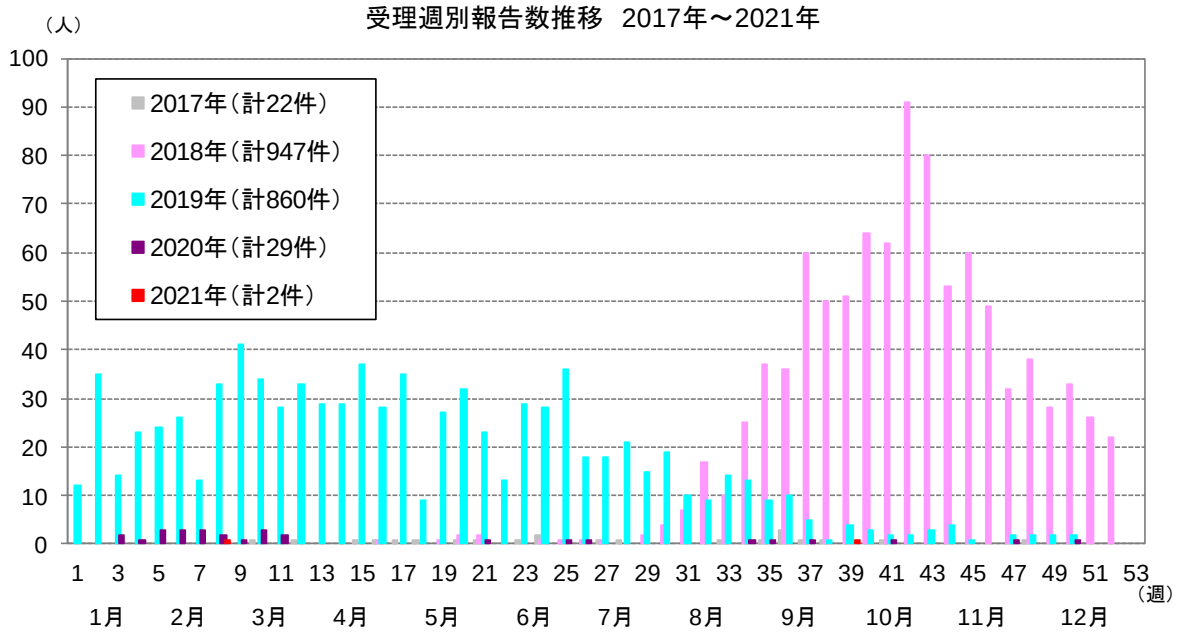
７．集団発生報告数

2021 年の集団発生の報告はなかった。

＜参考＞

１．風しん患者報告数の推移（2017 年～2021 年）

過去 5 年間でみると、2021 年は最も少ない報告数となった。2020 年 12 週以降は毎週 0～1 人で推移している。



２．先天性風しん症候群（CRS）患者報告数

2021 年の CRS 患者報告はなかった。

３．CRS 患者報告数の推移（2012 年～2021 年）

過去 10 年で CRS 患者が東京都で報告されたのは、2013 年（13 人）、2014 年（3 人）、2019 年（2 人）であった。2021 年は岡山県で CRS 患者報告があった。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
東京都	0	13	3	0	0	0	0	2	0	0
全国	4	32	9	0	0	0	0	4	1	1

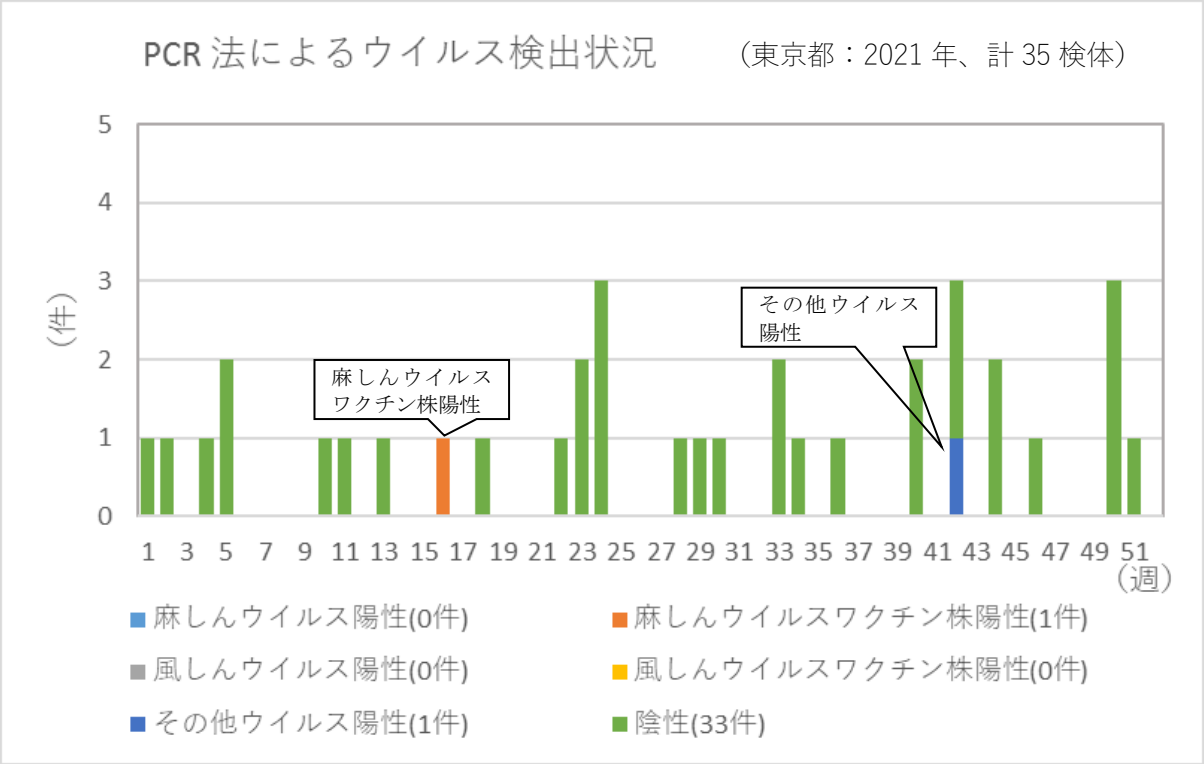
東京都健康安全研究センターにおけるＰＣＲ検査※実施状況

（2021 年 1 週から 52 週）

東京都健康安全研究センター

東京都では麻しんおよび風しんと診断された患者で協力が得られた場合、当センターに検体を搬入し、麻しんウイルスおよび風しんウイルスについて PCR 検査を実施している。陰性だった場合は、パルボウイルス B19 型の PCR 検査を実施し、2 歳以下では更にヒトヘルペスウイルス PCR 検査も実施することとしている。

2021 年 1 週から 5 週までで、麻しん・風しんと診断された患者 30 人 35 検体が当センターに搬入され、PCR 検査が実施された。結果は、麻しんウイルス陽性が 1 検体（麻しんウイルスのワクチン型が検出された検体が 1 検体）、風しんウイルスはワクチン株を含めて検出されなかった。その他のウイルス陽性はパルボウイルス B19 が 1 検体であり、陰性は 33 検体だった。



※PCR 検査とは、特殊な酵素を用いて検査対象とするウイルス固有の遺伝子配列を増幅することにより標的となる病原体を検出する方法である。検出感度も高く、検出する対象の塩基配列を変える事により様々な検査に対応することが出来るため、現在では多くのウイルスの検査に応用されている。

＜遺伝子型＞

麻しんウイルス

　　ワクチン型（A 型）：１検体

風しんウイルス（検出なし）

その他のウイルス

　　パルボウイルス B19：１検体